俳諧新選卷之三

平安　太祇
嘯山　輯

秋部

立秋　初秋

秋来ぬと合点のいかる嘘哉　蕪村

女郎達の勉強なるや七夕の秋　雁宕

蒸さるゝ秋へ覚やとる夕　青魚

[illegible]の[illegible]を[illegible]やうに[illegible]　茶雷
武[illegible]を[illegible]一[illegible]の[illegible]風　名峯山　呑那
[illegible]に[illegible]の秋　羽律
秋[illegible]に[illegible]小[illegible]れ[illegible]　田福
初[illegible]や[illegible]の雨　太祇

押散　桐散

蕎初[illegible]柳や[illegible]　嘯山
一[illegible]の[illegible]の[illegible]溪の[illegible]　白小松　素竹

[illegible]　喜朝
[illegible]日[illegible]　篤羽
桐の[illegible]　鯨童
二日[illegible]桐の[illegible]　千仭
風[illegible]柳[illegible]　土髪
[illegible]　雅因
蕎[illegible]柳[illegible]　太祇
[illegible]一[illegible]　肥　大祢帰　菊巵

ちる柳ながるる水の流れかな　水翁
ちるは葉をたぐるまねする　麥翅

七夕

稲妻や天の川　宋屋
ひかるのいろはを星に問ふる　李牧
靜やまれの稲妻ねもの　素園
七夕や妹が唱ひ句せん　今中暫　浮白
星合や樟脳の香かな　同　小袖　如江

銀の河を妹背の中に隔る　萬翁
あの織姫なれもあの河　瓢水
下書を緑の笠や梶の葉　存義
涼しさや天の河　篤羽
面影を星に代りてかたる　習先
七夕や對の狼の爪　太祇
七夕に向つてあの河　珪琳
長い聲を歌の糸や秋の雁　雁觜

我を慰て家れこのやうに迎　召波

稲妻

抱るゝ小稲妻の初たる　貝錦

稲妻と金てこそれの恋ぶし　隣水（菊原）

稲妻や海の稲荷下を　孤桐

いなづまや海の人ゝ浮ぶ　之房

稲妻を湯に煮て嘶ぶし　春爾

若浦くいなづまの影浮ぶ　習先

月に洩る稲妻もちらに居る　舞閣

いなづまや杉の梢の大立ぶ　嘯山

稲妻と打ちる時さゝる　石爛

いなづまやわれらに慈の色ぶ　三力（巻山）

いなづまや山路の山の白川　几董

稲妻に突出る女うぶ　麻兄

稲妻小枝ふるうる乱れ　竹友（ワラ盛カ）

いなづまに付るやゆの上　無名氏

裸男　いなづまの西流るる雲の武　土髪
いなづまや海の神の鏡山　龍眠
いなづまの周とひくの海の雲　旭扇
稲妻やかりそめなる浦田の稲（ビセン）　琴臺
稲妻の稲の実ならしかり　可壽（アヲヒ）
稲妻くゆくすすきの穂　三遊
いなづまの三つの法の法　子一
稲妻の毎夜の雲の和流

稲妻や白米の稲の乃乃　毛佛
稲妻の小松ひきの小松　鯨童
いなづまの朱の屋の海の　鯉古（三ノ原）

踊

乳母の月小の踊八つ　秋水
子と矣く初の踊　胡餅
ゆく我の角の踊　赤羽
牛引の踊の踊　梅仙（平戸）

踊子の新食し無礼紙仕式　沙月
化人と手拍子のなつ躍る　百池
狂人の力を出すおそれ　篤羽
酒ゆくと見乃ちけし踊小　百丈
乃ちなれあ高蔵と絡て踊なん　自東
踊場に遣水ちらす　季遊
踊るを踊るを踊るおさし手ぶり　大夢
ちらちらを出ちこ計おちうれ　太祇

蔦屋門に移れ踊り寄　銀獅
ちらくるを踊れ踊れ　呉雪
ちらちらを踊れ踊れ車　楮林

攝待

接待や四と音中乃鈴声　嘯山
接待れ礼の多行や二三遍　鶴英

魂祭　送火

棚経や二礼ちと源八ちう月　寛留

祝けるハ二生を見せるもの　大阪　沖三

一休の一乃字を物ものもの

文月の十六夜もうし　大文字　存義

見物に出るもの　大文字　宋屋

月もうかぶ烟や　大文字　南浦

文月や一字見るの大文字　嵐山

ぶ生を世に祝の意味　百萬

初嵐

初嵐ぬるの孔を吹もの　水翁

祝けるハ二生を見せるもの　大阪　沖三

一枝乃樹の言さ　意味　嵐方

泥棒物に同じ　武然

何の色変や　江戸　翠如　稲史

泥棒者の　子一

泥棒に　何　吐月

泥棒の涙　春來

百年を経すや口の中　青魚

新月や吹こうとする神風　一之

西瓜

うつくしく如此なる西瓜哉　春來
風呂多くとまりける西瓜うり
小こうくしく笑ひつくす西瓜哉　工壺
殺新や西瓜の実もちぶさ　太祇

蕣

蕣よ新迷ひ出でる雲の上　西宮　梅巵
蕣や新の月出る夕の蕣　丑二

新月や毎日咲くしらべ　富水
新新や毎日咲てあれさる　富葉
蕣や行くも去るも何新　赤羽
新新や新月の元一人蕣戸　寛留
蕣は世日ごろ雨ふる　百萬
新月や新ものとなる蕣の間　森兄
新新や盗人ふける垣なる　可風
蕣は咲新しく同屋敷　五柳

蓼やとけてうつる屋の影　多原　蘆角

新米や小つゝ役者のそしり　太祇

新魚ふ所く新らし月ハ　雲魚

蓼の穂と押分くゝ咲こぼす　節内　花

新魚のちらとゝ行や時雨ぬ　竹房

蓼乃屋さく新しく如こうう　賀古

蜻蛉

少庵ゝとゝもしんゝ　鼓舌

蜻蛉の羽うちの月を　嘯山

松乃葉ゝ蜻蛉ゝ　太祇

行ゝくゝ蜻蛉や花なゝ　李流

芭蕉

ゝゝ来ゝ新を捨ゝ　杜支

深ゝ行く秋しゝ芭蕉ゝ　寥太

そゝ新ゝゝゝし蜻蛉ゝ　習先

今ゝ行くゝ芭蕉ゝ

隅ゝ行ゝゝ月ゝ　竹房

一葉出て一葉ふりつもるか　嘯山
ちるくるとなる芭蕉哉　枝芳

露

白露や力尽たる萬年草　萬翁
あのやの苔ふるうるや春の雨　雨谷
金雲の雲ふるうるれるうつ　李流
白雲や俗ぬ山ぬ山ぬ　嘯山
川位むらふる昌の雨　雅因

雲ふるうる黄昏わるる哉　素竹
雲や庵の外の壁人　欠作者
雲ふるうる雲ふるうるうる　文素
門側ハ雲の町や動れ雲　毛佛
夕雲れ雲と夕雲ふるうる　六夢
雲ふるうる月のふるうる山の上　富水
雲の雲形の雲の雲小雲れ雲　赤羽
雲ふるうるうる雲小雲行　孤桐

[illegible]　郷今

灯籠

[illegible]　東舟

[illegible]　滑北

[illegible]　都夕

[illegible]　欠作者

角力

裸[illegible]　雪峯

[illegible]　旭扇

[illegible]　蕪村

[illegible]　杜支

[illegible]　嘯山

[illegible]　孤桐

[illegible]　水翁

[illegible]　斗今

[illegible]　雅因

いろをかねの石の角力場　紀日高　社中
こゝろとをれけりこゝろつる　五徒
おちこちの川蛙かり角力場　稲音

虫

虫の声蛙の異名ふかし　アフミ深ミ　湖月
手掃除のせゝらぎや出の声　光甫
おきけハ又命さしり乃ま　嘯山
ゆくすゑ無やなのたるを　野有

ゆくゝや小唱寄合の出の戸　左釣
耳ゝくちもゆゝ人乃首　赤羽
戸ゝ為ゝ様ゝ様ゝ出の夢　太祇
出の為や京ゝを為ゝ　喜水
様ゝ為ゝ出の行や　土髪
ゝゝ為ゝ様ゝ出の声　ワ出四　都城
出ゝ様ゝ様ゝ出の行　松竹
前の一種ゝ為ゝ　尾張　冷五

口よとぎすこゑ寒くなりぬ　大坂　懷居
同　秋の声　同
夫婦乃淋しきを出る雁　南雅

蓼　蟷螂　蟲　蜩

蓼ゆゑ河原の戸ぬれゆるぶ　麥翅
清水ながる御殿の寺やきりぎす　孤桐
蓼ゆゑ見るといふ蓼　移竹
面影とうつる蓼きりぎす　習先

寺小屋く探のうきやきりぎす　二柳
蓼濁りて蓼もたれ　寂　上野井波　陸史
蚊のうるる庫裏やきりぎす　太祇
蓼や面影花もつれより　子曳
我撫と蓼ぬれ蓼やきりぎす　支鳩
君子人蓼ゆるとつくづくと　嘯山
田前沢ぬるる蓼　留元
塩辛色石の菊ぬるる　其化

[illegible]の[illegible]工面[illegible]　嘯山
[illegible]月[illegible]　凡流

萩

[illegible]杖[illegible]　樓川
[illegible]蓋[illegible]　貝錦
[illegible]　射牛
[illegible]　卯雲
[illegible]　太祇

[illegible]　蕪村
[illegible]　適齋
[illegible]　闌更
[illegible]　太夢
[illegible]之房
[illegible]　尺布
[illegible]　瓜山
[illegible]　羅人

[illegible]の[illegible]の[illegible]　嘯山

霧

[illegible]　練石

[illegible]百[illegible]　存義

[illegible]　麥翅

[illegible]　嘯山

[illegible]　支鳩

[illegible]　卜友

[illegible]　蕪村

[illegible]　雅因

[illegible]　里烏

[illegible]　太祇

[illegible]　欠作者

花火

[illegible]　其丸

[illegible]　都城

おもてをかくしたる　嘯山

鬼灯

鬼灯やうく言ふ男の子　有我

鬼灯と世之人くる　百萬

鬼灯やつゝもたる袖ちぎり　太祇

鬼灯の下ゆく風の　麥翅

鬼灯や俗小文のわらつて　嘯山

案山子　鳴子

鼠の鳴くやうなかしこうる　今歩　三耳

かゝしを鳥のもてあそぶ　文湖

こゝ吾る鼠にのるかしこ　雅因

かしこ鳥を追ひはらひ　雨遠

陽に出かゝる陽やあたゝ　毛佛

新仏鳥の仏合わかしこうる　貫古

傘やとかしてあたゝ　買友

光るを笑ふのうらふかきかし　孤桐

ものしてひとつ　大夢
雲の如　雁宕
智恵を問　変翅
ゆうしの立角　習先
竹寺ふかく　玉芝
ひとの骨　春山
ものしる　它谷
なのこるかしや　貝錦

人並かしの　龍眠
義を乃果　乙總
探る探る　太祇
ひとの日ならず　宗雨
一引く余の　龍眠
何とぞ　維駒
知るすら　彈月
夷ものしる　嘯山

京と出し日八雨ふれば鳴るこゑ　蘆角

蓼　番椒

[illegible]　孤舟

[illegible]　太祇

肩[illegible]　嘯山

峯入

峯入[illegible]　欠作者

山[illegible]　太祇

女郎花

[illegible]　超波

[illegible]　雁宕

女郎花[illegible]　嘯山

小[illegible]　蕪村

草花　花野

今一里生[illegible]　如水

[illegible]　李流

丸わつく咲もおもしろし　午炊（鳥羽）
牛の声ちらしくれる秋の雨　捨石（サヌキ 大原）
搗ちらす牛の足跡の秋の雨　賈友
人をつれ白井東の秋の雨　赤羽
振袖とみれば西の秋の雨　止角（ヒタチ 三吉）
みれの咲もさそふ秋の雨　車兒（ヒタチ 出山）
一つ家の古人ふん月の秋の雨　天露
樹々古きとみれば秋の雨　雪蕉

おこすうつみ家こそ秋の雨　志昔
ふるとつれ立ぬ秋の雨　喜招（肥前 大村）

秋風

樹々の枝ちらす秋の風　龍眠
消ぬ咲や秋の初の色（イセ）　柊花
日の暮く樹々ちらす秋の風（同）　其雷
木うら鬼の出ぬ秋の風　素園
結ぶ乃ちらしかくれ秋の風　雁觜

[illegible]や[illegible]の風　儿董

鶉　鴫

耕[illegible]出[illegible]わ[illegible]や時鳥　雅因

[illegible]嘘[illegible]時[illegible]つら　西灣

[illegible]の[illegible]や[illegible]　太祇

わ[illegible]や[illegible]れつな[illegible]　文水

[illegible]の上　習先

新[illegible]の伸[illegible]　越中城端　嵩平

色鳥　鴫

[illegible]　榮瀧

[illegible]　超波

[illegible]　嘯山

[illegible]　嵐方

月　名月十六夜　十四夜

[illegible]や[illegible]　毛佛

[illegible]の[illegible]　蘆角

百年ふる百分遍や村の月　鼓舎
行沙に濁るの月の波　楓里
雲ふかく三日月の森えぶ　佛仙
業や路ふの知れぬ一川　都夕
茅ぶる松ふてやの月（カボ松）　越蕪
やうく月の出ぬかうつる　嘯雨
野路の月雲ふる月和ふ　它谷
（紀の海より行ふ海ふ）
月ふかふて波ふ淋れ　野有

三日月ふ山ふれ海ふ　大石
かれふも花ふれ雲ふ　希因
月ふ（南座）雲ふて稲ふ　井々
百姓の家ふ新し門ふ月　富水
野ふの仕舞ふ　羽律
三日月や雲ふ波の上　太祇
ふふふふふふ極の湯　湖暁
雨の声ふ律ふふふ　（篤二）秋月思覧

行ずりや満ん〳〵の郷ら　嘯山
とつくれた七夕の日　和流
名月や海すゝぬれ　尹周
名月や嵯峨の月　淡々
名月や帆ばかり船　貝錦
冥土の名月　李院
船の明るく漕ぎ　鶴英
源氏語の月の光　必化

鄙〳〵屋〳〵の月　可兆
名月や船と上れば　羅月
名月や月は素園
名月や人の森　涼佛
名月や世事を忘れ　麗白
名月や月の光　葦嘯山
名月や地の水も　太乙
和尚の月の月　多少

[illegible]　丸流
[illegible]　社中（キイ日高）
[illegible]　胡餅
[illegible]　蓼太
[illegible]　青魚
[illegible]　雲魚
[illegible]　文素
[illegible]　覺邦（糸園ヿ）

[illegible]　樓川
[illegible]　渭北
[illegible]　野有
[illegible]　宋屋
[illegible]　鸞窗（出羽）
[illegible]　練石
[illegible]　田福
[illegible]　太祇

[illegible] 珪琳
十六夜 出[illegible]やいのまろ[illegible]ぼの石 紹廉
松の[illegible]日の月[illegible]と[illegible]又 流斜
松[illegible]り十七夜 休粹
無月 [illegible]月の[illegible] 僧 爲允

野分

[illegible]の[illegible] 光甫
[illegible]女の[illegible] 花廬

[illegible] 樓川
[illegible] 菜根
川[illegible]の影[illegible] 之房
[illegible] 習先
[illegible] 凡流
[illegible] 尺布
[illegible] 麥翅
[illegible] 平戸 芦雀

[illegible]て樹の紫を戸蔭に　太祇
菊ばく鳥そらのうらなる　紫水
老の杖の力尽きの野ふる　肥大村　玉志
かゞ焼く岩小松遠る野ふ引　雅因
狗子の門うおうて野ふる　山外
野ふりて生松山の接芝居　鼓舌
花ゝゆるうしる野ふる　白芽
行も清く煤の野ふる引　大夢

砧

宇治ゝゝ森入るや小夜砧　珍志
ゆゝ母の作やうまて　志昔
塩ゝそゝ八文の砧う邨　水翁
うきゝよりそうする砧う　蕪村
夜ふけの恥ゝなる砧う　土髪
川音小文ゝふる砧う邨　千仗
夜辺ゝすから傳ふ砧う　嘯山

ゆきの松屋よ株せくまあり佐久　沙月
ゆくと立て戻る廊やけよ佐　八兵路　胡丈
如屋小袷をもきぬるる　龍眠
衣うりやまの付ける乃行ぬり　之房
田家
けるちるさを佐の梅ふれ　百　桃鏡
小松ふけく拍子の河む佐うる　支鳩
宿借るく立て出るる佐うる　孤桐
乳啼しのこまを小代る佐う邪　雅因

ちくけくふつる佐や屋　清　移竹
佐きく多雪もわり揚屋町　京　泉旭

鴈

初丁よ國の花ハなるそら　敵　如石
初丁や行ちもる　百　杜口
初丁く日本ハ堅の色うす　嘯山
すしさを拾くるの海ち　茱根
初丁や漆の乃そろ声　春來

初丁やまゝの國よりへる傳子　梅四
離しと咲くあるを當れ丁　蘭更
丁の声屋根へちらと出ひらり　土髪
棹の丁り赤ハさと蔭よりう　栁浪
市場や鳥ゝ降るの丁の夢　千宮治　御風
人住め命山畑や落る丁　太祇
乱ゝし追面ゝ丁やはるなゝ　青蒲

柿

師所跡ゝ古の柿共盛る　富葉
山ゝ柿のゝ住ゝや柿　林　漁焉
淵柿やゝ鳥ゝ門ちゝ　赤羽
淵柿の赤ゝ迷ゝ　旭峯
柿ゝ柴ゝ柿ゝ河内国紙ゝ又柿ゝ後ゝ郡　太祇
柿ゝ柴ゝ柿の秋ゝ　晩平
ゝ柿ゝ淵ゝ　尺布
わけ柿ゝ人の工夫　嘯山

柿うしろ鳥も同じ家ゐる　周蛇
ゐる柿の間よ秋と送ゐり　吏登

薄

ゐ張り風のふ行すきゐる　栁
ゐ里の行と振ゐく蔭ゐる　芝田丈　江
ゐ人ゐ小風ゐゐ蔭ゐ　赤羽
ゐ佐ゐ耳よ蔭の語ゐり　五好
ゐ訪ゐ拔ゐゐ村ゐき　之房

吹風も佐小押合すきゐる　止角
野の風や小松ゐ色尾花ゐ　太祇
ゐ月の尾ゐゐ尾花ゐる　鳥石（ちょうせき）
武蔵野や中野出ゐ蔭ゐる　枝芳
ゐ尾花動ゐゐゐり　大夢
ゐ尾花風も白ゐ吹ゐり　習先
夕月の白髮ゐ糸すき　里泉
江戸と書て武蔵野一花蔭（カゲミ）高三　之

夜寒 朝寒

秋深く西の海きくを秋 イセ 宗梦

初雁や八幡の秋をうる 鷺喬

月をしあをし小刀の中 嘯山

西方の夜は八つしあをう 一計

假寝所の秋を小をし湊のや 尾張 新蓋流

笘あれくるる星の秋を小 孤桐

夜ふて月をなくるる秋をうる 蕪村

やもをく初よ三月の秋をう 太祇

手紙を紙ふくむす秋をうる 蕪村

朝をを掃こをを秋をう 太祇

朝をを烟月よつく夜をう 孤桐

朝をを蓮を咲をる上 習先

朝をを東西をををを 迂童

秋夜

秋の秋を徒者は軒うの秋 駒門

秋の雨やはるばるとうつしきて搬治の音　亞三（ヨツ中 牧端）

水に秋やうのとりの鳴く　嘯山

秋と杉の仏の踏せんの車　烏栖

蛙上秋の雨とちかひ　孤桐

秋の雨と水に鳴る音　蕪村

淋しさ蓮の又学くれて水に　衡冠（兵庫）

水に秋やはるばるとうつしきて　太祇

志の秋の八金の荻の戦ふ　沙月

鹿

心ばせ鹿や高る鹿の声　恭里

鹿や一樹の陰の木枯小屋（アラシ石ア）　蘭亭

宮の鹿小ぬる鹿の声　卯雲

小男鹿やるこそ小方れ鳴くべき（イセ）　御風

右たゝめ右る拂や鹿の声　沙月

鹿の一枝の声や萩の鹿　嘯山

芭蕉祭の信小鹿の寝覚　羅嵐（カ小松）

ぬんとや糸とうけあるる蝉の多　澤北
雨の蝉人とうらんぐいとうら　嵩平
荷蛍の集とうらんぐん蛍の声　沙月
信濃ぐく浦寺一面や蝉の遠　篤羽
勝こうぐぬ蝉てあわや蛍の声　習先
遠る附男蝉の角も浦仏うら　左釣
笛ぐく蝉のおれぐぐや一所る蝉の命る　龍眠
蝉の灯とうこれぐぐ蝉の声　蕪村

ぐぐ丈一里言ぐう蝉の蝉　雲魚

秋暮

人ぐいさ蝉とまるぐ秋の雲　祖扇（宮）
海ぐぐも鳴ぐまる蝉ぐ雲　瓢二（長尾）
秋のこれ反橋紙ぐ人ぐ　嘯山
蝉ぐ海の秋ぐ秋のこれ　太祇

萩

雲ぐる日とうぐぐ萩の裾　周砥

[illegible]　大夢
[illegible]　一兒
[illegible]　麻兄
[illegible]　水翁
[illegible]　雅因

雞頭　葉雞頭

雞頭や門山里乃門厠　嘯山
三伏は貴し雞頭哉　肥後　乙語
[illegible]　井潦
[illegible]　赤羽
[illegible]　嘯山
[illegible]　武然
[illegible]　富水

引板

[illegible]　赤羽
[illegible]　之房

稲 新米 田苅

畠苅男うれ　習先
稲ばかりまわるなり　米　ミノ　飛良
加賀屋の宮　嘯山
行米のもち　稲の雲　太祇
赤とうく行米　香や大佐事　雅因

烏瓜

ちとかくれ　瓜　蓼太

遠ひかり　ゆうから瓜　久屋形　馳舟

梅嫌

こたへ　梅嫌　五好
学ぶ門　存義

柑類

てを実　柚の抽味　大村　桃葉
夏　彼者　紀国　うん式　孤桐
暗れ国　林　邦　嘯山

榲桲や二月の雪の西の袖　文誰

九月の雨の杖とあるまうれ　孤桐

露時雨

露時雨あるとも知らぬ水流れ　季遊

露しぐれ宇治の新酒の酒盃　嘯山

高川や露時雨　雅因

重陽

杖とつく友を浮くるの菓　宋屋

酒くみて友とうたるる　嘯山

ふるくはしきの菊のさかるる　雅因

ひとりうく酒とうたうる　召波

田家楽

酒わくるそうなやの声　嘯山

栗　團栗　椎

栗をおくり栗の木代　几菰

義仲や世のまわり二月の　雲魚

ちごんと知るく霧の落ちる　沙龍

国[illegible]　瓜流
国[illegible]　嘯山
推[illegible]　孤桐
[illegible]　歸厚

菊

白[illegible]　蕪村
[illegible]　五筵
雨[illegible]　卯雲

枝[illegible]　茶雷
[illegible]　城端　而章
垣[illegible]　峯山　其輪
[illegible]　辻村　千梅
[illegible]　春來
[illegible]　江戸　不角
[illegible]　存義
[illegible]　移竹

菓の名や庭の木の葉の山かつら　嘯山

おとなしく乳菓ふくめや菓の色　篤羽

菓きくくるこの世話ばなしかな　素園

山城の名やうつき菓乃霜　宋屋

酒瓶を洗ふてくるや菊の花　龍眠

ものの中ふ白の菊乃露　土髪

九月九日和やきくの花　五杢

物ばなしくるくるくん菓ばなし　大坂　布門

漢水の清水菓白しくるもの　太祇

人色ちらの菓ばなし

ふりて菓ふ洗ふて菓ふ洗ふ　雪蕉

物思ひ紅葉の赤ふ菊ばなし　セツ　隣水

菓の名ばかりふ洗ふ　イセ　樗良

乃ち菓の名ばかりふ世ふ　石爛

ふ世ふ菓ふ菓を菊ばなし　赤羽

乃ち菓ふ洗ふ小ふ菓の名　眠柳

菓の菓や十ふ咲ふ洗ふ　可幸

草菌

松茸やかくれもなきを知られけり　駒門

茸もるで老ゆるまいとや　茨撥　鷺喬

蹴すのこをつたひや菌うり　兵庫　雷車

ふ茸よりよく生まれやけ　菌　它谷

破れ笠提げてなくるあのあり　尺布

茸一面も捨てこそ病れ木の子　麥翅

茸狩のまとは遠ざかるか　雲魚

牛祭

雲のあとそなく雨ほうら神　太祇

角ふ生ひ牛ふ牛ふ　蕪村

牛ふ舞ひ女やもちん　嘯山

後月

名月の砧ふ十三夜　龍眠

くうくと石根ふ月の　貝錦

ふ月ふ移り変りの十三夜　几圭

扨ものゝ御宝もえや後の月　嘯山
後ゝの雲や月に横れ　男　几董
我宿の月を見んと十三夜　春來
苅込の田毎をとんぼやゝ三夜　惟善
如何ばかり袂濡らしぬ後の雨　江戸　帶雨
十五夜出て居ると十三夜　同　百菴
山の端ふくらむ後の月　政田　三枝
楓　野山錦

二三人ゐる日蔭や茶摘　丸口　水蛙
見えぬ人ゐる日蔭や茶摘　茱根
つゝかくし勝負の紙ぬるゝ　枝芳
下唐の雪ふるとも春の雨　宗專
降れ降れと母は待ちけり　五鳳
花菖蒲ぬるゝ人ゐる　鶴英
ちらくの人さしうらや　石爛
り花の雪とれかゝる　嘯山

遠海の山より秋やそめ　吾友
川霧を注くるとくらし　高雄　移竹

雜　秋

くゆを引て菜の新し　鶴英
焼米やそるの乃伊勢の秋　召波
泉涌寺光人子多記蓼系　瓢水
猿の泣と答へ寒しめり　之房
十なるゝ冬の新そふ　半魯

うゝくゝ未花のあるふくるゝ　蓼太
咲代やもアヶ木槿ゑ　龍眠
ふくゝ目のちるやまんの蕊　瓜流
世よ今の濃ゑや蔓珠沙華　祇川
跡ゝ見る額ゝ浮者花五加木　竿秋
ゝ山も茶代彩濃の烟草　大坂　嗅洞
あやゝの杉色やゝ　嘯山
八朔
ゝ拂るくゝふつゝ　布門

蛍狩や鼻かこちなく面しろし　太祇
ふるの人西くあれの面　小松　蝶我
ほまつ菓子ふるの面　召波
秋の蔦画屋の工夫身下り　自笑
新もち上る新く敷生　舎兵路　十章
粉生ふかし蔦の角　白芽
掘る蕨人あれ多　止角
ふる風のぎとふの芋梗　孤桐

月の桂やあれ物好し掘赤し　太祇
秋風のふる程ふし家士の　李丈
蕨遠く蕨骨人の柳れ　它谷
築とし漁師ら焼や七年沼　太祇
寺子屋秋雨も浸架も鳴脚式　嘯山
裏結ふれ神ふる小雲赤　全
菩提樹の実六月の社礼念珠赤　壽松
蛤や秋日　崔礼ふ　瓢水

かれそうとする蓼の葉の赤羽
さや豆のけぶくるるかな（筑中千那より）冠那
山よりあるるや蕎麦の花　八川
秋うちる家よ嵐の夜の夏（江戸）亀成
こがくれの白きや秋の雨（越前）梨一
月よりそ紅葉の雨　太祇
山里や五枝よりの蕎麦　麻兄
文遷　樹よ森あるや秋（伊勢）乙河

石ばくと菓子なりの山ばらし　太祇
ひとり晩のしもとの秋惜し　李雪
七月や寮の灯ともうるかな　文湖
うるうるやかたと蕎麦しまかえの里　二柳
ものやまこしとなのうの秋入る　雅因
もとゆく情の信やかの夜の　希因

暮秋

一里ばかり落葉ばかりの流れかな（出羽大石田）桂舟

り紙やりて寒く風ハ吹ふく　素園
踏ふる風をかくる糸桂りり　巾糸
菜畑一面弱やらしのれ　太祇
ちこやまもしのゝ小枝ふれぬ　枝芳
わしるける償をなくれ桂行　斗吟
りれやゝ消きも亦情ふ　赤羽
ちくくれちと情ふ風の侵千疆やゝ月二三人　嘯山

新選卷之三終

俳諧新選卷之四

冬部

時雨

行潤る二日の月や神ふれ　呑鳥
かれ吹寺松杞の紅葉し社附ス　鍾山
神附ス二月月れ吉解も　嵐山
當れ思ふりさやタ雨ふれ　太祇
如房と酒のれるやけ附ス　蜷古

鞍馬の牛車　蘭所
絶景は骨あらはれ　富水
夜行小川の月はあらはれる（イヨ）　八好
月は冴かるく流れ　習先
路売の干わる水や山は寒（ハリヒヒ）　寒烏
山寺やかさの家の駒門　駒門
清き夜の風はすゝきの白芽　白芽
一ふし高く流るゝ　南露（カヽ小杰）

甲斐ゆくや富士は雲の一はけ　合浦
夏祭へかけて物売の嘯山　嘯山
行よのさゝやきの虫ちゝ　ちゝ
犬の声八月の村をさまる月　季遊
ちゝゝゝや山田は雲はつゝり　羅雲
留すゝ花の秋ひとかすは雲　竿秋
清水や月新くゝ秋なる　楮林
ちゝゝゝや秋ゝすゝる雨の夢　貞至

初しぐれ降るとなく　素園
ちるもみぢ　南雅
千秋の毎ハ小しくもなる　可興
寒く淋ハ盃人さそ村しぐれ　儿圭

落葉

落葉ふまつ拾ハ為ゆるもの　習先
花しをるとちつるゝ落葉　子一
川の石ハちるく流あらそれ　五始
流るゝ落葉の為ゆ月の下　自友
見る井小月の新減る落葉哉　素園
ちるもの風のかゝる落葉哉　浮石（イセ河井）
上藉の落葉繰ゆく齋ふる　貝錦
岨のハちるもの落葉哉　太祇
後の小落葉かゝる男の音　嘯山
力新流ゆ小おちる仲　瓜流
なるれの落葉の音や流るゝ　霞洲（若山）

山の肌あらはるる蔦紅葉かな　若山　粗岡
雨乃雫とは埋もれ蔦紅葉　由至
けしてもとして満月　雨蔦紅葉　可鉛
山々蔦紅葉掃なるやうに　ゝゝ原　哥口
みまれまるもたゝるかな　蓼太
蔦紅葉して幾日小雨降り　存義
耳たゝくるはたゝくに蔦紅葉　蘭丈
月のたゝ月のたゝ蔦紅葉　李流

しらたゝれ蔦紅葉の切返し　大夢
吹たゝ彩ゝ月つく蔦紅葉　鳶羽

枯野　冬枯

なんかはたもちんたゝ半枯野　孤山
枯果てゝ枯るる野原　李院
吹風のまとゝる枯野哉　鼓舌
夢ゝゝゝゝゝゝ枯野哉　沙月
色なりて正月ゝゝ枯野　鶴英

一角の門にすす枯野かな　潭蛟
苔ふる石に落るる枯野かな　可鉛
鼠もなくて出る枯野かな　蕪村
さりくさや枯野の路の乳ムラ岩沼　且水
明るさは月の石や枯野原　嘯山
妖されやすい雲ある枯野　呑鳥
そろふ人をまつ枯野かな　雲魚
十あまりふる古くて枯野かな　白羽

春の色を冥と情じる枯野　春來
綾塀の内とる枯野　移竹
淋しさや生ある枯野　百萬
淋しさ月後の枯野　雷車
ひるぬけと方ある枯野かな　太祇
虹ふるの赤かる枯野　司鱸ノトセ尾
野仏のふるとる枯野　紫水
枯柳色ふるる枯野　鷺喬

ぼうくてゝあをと枯も枯よう　駒門
学ばれおりきの白やうれ柳　李流
海苔ぶせいきれやうれ柳　麥翅
枯枯くるまんとも紅葉ふ　習先
枯枯、あり北風の辻ゝ多　浦玉（京舟）
みゝ枯くくくくる柳うれ　水翁
枯ゝゝ新をれ柳ゝ　大簣（イセ）
枯尾ふとも柳ゝ　文素

みゝ枯やたゝ加茂ゝ　暗水翁
枯声の日ゝ枯ゝ　闌更

冬ノ木立

孤峰ゝ内裏の西や冬木立　沙月
冬木立ゝ菴の後れ　蜘柳
以れ枯る鳥れ梢や冬木立　孤桐
寺ゝ以れ西の宮や冬木立　習先
冬木立ゝれゝ　青蒲

[illegible]　丈石
[illegible]月や[illegible]　嘯山
[illegible]生し[illegible]　支鳩
[illegible]　丈石

寒菊

[illegible]　唄子
[illegible]　斗吟
[illegible]　淡々

[illegible]　嘯山
[illegible]　李流
[illegible]畠[illegible]　赤羽

達磨忌

[illegible]　春來
[illegible]　嵐山

茶花

[illegible]　半魚

菜の花や芋も白ふを見せ初め　蕪村
菜の花や川是ニ言ふ又低し　嘯山
菜の色や茶白ふも嫌ハ来れ　壽松

枇杷花

ひらやかまくらの枇杷の実　東殘
野ぶ叫くこゑの枇杷の花　巳白
枇杷こゑや浄瑠璃思ふる　古津

口切

口切や茶かふ[illegible]　和流
口切や羽織[illegible]　嘯山
口切やそこ[illegible]ハ小茶　春來
口切やしらふ[illegible]　太祇

巨燵　文子圍　火桶　炉裏

脛一やゝ燈の上ハ小盃　召波
[illegible]　希因
[illegible]　研

[illegible]　嘯山
[illegible]　孤桐
[illegible]　習先
[illegible]　斗吟
[illegible]　季遊
[illegible]　笛十
[illegible]　梅史
[illegible]　沙月

[illegible]　雅因
[illegible]　青蒲
[illegible]　瓜流
[illegible]　太祇
[illegible]　鼓舌
[illegible]　休粹
[illegible]　瓜流
[illegible]　貝錦

撈の火ともるかと見てつ　龍眠
行秋の小屋の実あかいろなる　哥口
ちりぬるかと撈の花　李流
撈のかやの花ちる森の朽木　桃葉
初霜にとりのこされし稲の穂　石爛
押かくす又引ひろげる蒲団　武然

返花

もゝとせ白ちるまゝ咲　赤羽

うつくしく咲すぎてちりぬる　杜支
初風の吹余すこゝろかな　芝龍（ハツヒロ谷）
あれ初の花ちる花　嘯山

風

風やいづれ月見ぬ所　射道（山京ノ）
風と打ちいづくすゝし　孤桐
風やそれの花ちる時　雨谷
風やあるこゝろ和の春　鼓去

風や雲とこの世をとく里をし　許適
風ふけばうやうやしくふる家うる　石爛
風よ秋とこそ気よ吟ずらん　杜支
風や波うつこの世の末　麻兄
風や何ませてこそ新る家　蕪村
風や新く岩よりもむ書　柳水
風よ竹の音ばかりや聴よ蓋　太祇
風よ吹ばしらしらる所なる氣　止角

風の桟橋ちくぶ音　雁皆
風や湿布の湿もあり行ば　乙総
風や月白ばる友よ眼ばかり　蛾眉

初雪

初雪や波の原あり岩上　淡々
初雪やかり眉毛はかり程　季遊
こゝの雪や地ハ之あり家ゝ　文江
初雪や余り嘶ありしん　鼓子

初雪や茅屋の相撲とる　嘯雨
初雪とおもふ心の紙屋　亀卜
こつ雪共蔵ものあるし　吟角（ムラ仙タイ）
こつ川雪の兄年寄ふる　舎人（同中新田）
初雪共こつ酒ふるまふ　赤羽
初雪や花心相とられし　宗専
初雪共屋とこけ八行の月　蕪村
初雪や二れ暗闇人とうや　自東
初雪に小郡の宮紅八の人　雲魚
初雪やいつ海苔ふる所　宋屋
こつ雪あと初雪こつ雪　雅因
初雪や寺りく海ふる　武然
初雪共さとも寺川ふる　嘯山
初雪や夜ノ寺こつ聴ふる　太祇

霜

後宮社毎戸の酒や新北書　周砥

永川のほとりにて　糸遊
名残をしむ人々　赤羽
此日雨さへふりつゝ　茶雷
雨ふりつゝ　亀石
温泉のほとりにて　庭臺（江戸）
雨はれそめる日　洁々
法華堂獄屋にて　孤桐
仏会の後あんこうにて　李流

詩をもて西路をはるかに　青蒲
うゝ風や埃よ物　龍眠
あく雨ふりあつまるやはの面　稻音
寝乃大海ひとる　嘯山
我峰の雨（岩山の雨居）　祇峯（江戸）
十夜
あれなゝ十夜八月　諸號（ひの西宮）
八条ゝ　鼓舌

柚と柿もみぢすなれば十和尺　漁焉
山小僧の点あてうれば十和尺　兎流
月新よりもれる十和尺　百萬
和歌山の二の門二十和尺　太祇
祇王祇女弁と紙る十夜尺　嘯山

御影講

当戸より新蓮　習先
山新蓮の花のあるじや女郎　太祇

新蓮や山新蓮　嘯山

夜著　蒲團

田圃の和尚先今一佛事尺　文湖
ふとんくおろす度ごとに蒲團　鶴英
少し持て新所宮れふん尺　召波
物ぬしなくて書棚の法華　太祇
ふしの長き夏ふしの物ぬん尺　嘯山
新しうふんうる　羽律

大会の假庶幾むかし　蕪村
活仏はかんとしむ麿風式　太祇
里下のちとゝゝゝゝゝゝ　赤羽
嫁を育はつゝゝゝゝゝ　多少
わるゝ夜をねゝゝゝゝゝ　李流
めゝゝてきてゝゝゝゝ　孤桐

生海鼠

海をわるゝゝゝゝゝゝ　谷水

出ゝゝゝゝゝゝゝゝ　尺布
宵のゝゝゝゝゝゝゝ　富水
光ゝゝゝゝゝゝゝゝ　大夢
雲ゝゝゝゝゝゝゝゝ　可幸
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　來雨

鰹

鰹けゝ戦ゝゝゝゝゝ　漁焉
鰹の捨小ゝゝゝゝゝ　銀鄉

人こうこうきこえ鈴くとはしりうん　太祇
鈴谷しの人の春こえ乃ゝ
鈴けや小家こ鈴こ乃ゝ竹のえん　支鳩
鈴山く小松の中こ人城ん　雪蕉
こゝ山ゝこ鈴こ絡こゝこけ　蕪村
鈴くけや樅こ雨く乃ゝ　赤羽
鈴所こ女房こ鈴れの百しゆ　之房
行こゝこ鈴答こ人の春新る　孤桐
鈴こけくゝこゝ人よかゝれこゝ　百菴

冬籠

金屏なしや鈴ゝ鈴ゝ乃ゝ　凡流
石ゝこ涙こ小かゝれこゝ　樓川
松春雪こ伽羅の百しゆ　只錦
少陽こゝ物こ物こ　超波
屋こゝ葉の春や乃ゝ　太祇
京の百きこゝく鈴ゝ　龍眠
書こゝ小ゝ八こゝ乃ゝ　鼓吾
妻こゝ流こゝ乃ゝ

富士　嘯山
鷲羽　它谷
寛留　嘯山

多少

寛留

衡

孤桐　龍眠
李夫　召波
麥翅　它谷
紙隔

城端

水鳥

水鳥の打ちたる西北京　蕪村

水鳥の芦葉を捨てし行方　白雄　李子有

伏るく鳥もとの水鳥　李流

竜安寺

鶏なくや行方寺の門　嘯山

鶏なくや水鳥眠る二月堂　之房

水鳥の月も酒くさし　習先

水鳥の夜下る日の夕日哉　丘山

麥翹

ぬる鶏や海ひくく白合　龍眠

かくれ行方の温石　亦羽

冬牡丹

ちる時も家の内なる牡丹　萬翁

牡丹の蕾ふくらむ　卜我

新蕾紀日の庵や牡丹　習先

大根引

古根くいの味ひ神無月　珪琳
つぎ小流をつりやち松引　嘯山
古松のえをゆる実の新　它谷
物ひとへ長ひさうち松引　凡流
京ゝしは年八ゝしち松引　孤舟

鷹

蘇鉄やくんぜんの上　寛留
乱舞共不つまを鷹狩　它谷

ゆゝ中とつ紅の鷹狩　篤羽
車みゝ笠の梅の鷹狩　竹牙
ちゝ鷹ゝ大社の鷹狩　文湖

冬月　寒月

大中小雪の新ゝ月　喜水
風ゝ吹ゝ雲の満月作ゝ　和釜（カ小松）
冴ゝゝ雲ゝ仏ゝ月の月　龍池（大坂）
ゝゝ行ゝ月の月や乃ゝ　篤羽

をとこゝろ　存義
みすぢや月のそら　自笑
物憂のわゝ屋をとこ　醫平戸 美玉
すゝぶくゝ人ちかぬ月　セの熊内 文水
寒月や山堂寺れひとり云　之祐
こゝろの深さ　雅因
月やあの奥の院　太祇
月やあくがれ　沙月

寒月や孤くゝ実ケ原　嘯山
月や伽藍より金ノ格子上　蕪村

紙衣

あくがれて今年もまとる紙衣　貝錦
ちゝ母おうく紙衣　篤羽
嵐の紙衣　嘯雨
今ハ人ゝ紙衣　烏栖
紙の衣ゝ神と云ふ　常世ミノヤ

多少十年くゝ惰ふ誠ふ　龍眠
秋ふ〻ふ事ふ風ふ波ふ　多少
仙合ふ世ふ夢ふ秋ふ　大夢
秀ふ〻ふ心ふ花ふ〻ふ　卯雲
世中ふ紛ふ秋ふ妖　乃伎　存義

水仙

清ふ水ふ香ふ　一兎
水仙の花ふ秋ふ　天保大島　秀山

水仙や〻ふ樣ふ抱ふ　暮四
ふ仙の花ふ〻ふ　文山
生けふ〻ふ小ふ〻ふ　守大
ふ仙と切ふ花ふ　士髪
ふ〻ふ〻ふ青ふ水ふ　之房
水仙ふ寒ふ〻ふ扉ト　以樂

寒〻

濃ふ紅天文ふ玉ふ　貝錦

桂庶子日のくれぬ　雁觜
初雪ふる夕風ものり　子曳
ふる雨の風ものり　太祇
形の居さへ月ぬれぬ　天露
所を夜や代る春　孤桐
ふる秋や関ふる家の　嘯山
所を秋や雪ふる　金刀
雁行の夕ふる　雁宕

桂花ふる夕ぬ　練石
ふる風ふる戸の　篤羽
ふる日ふる所　它谷
ふる雪ふる　既白
面のふる　麥翹
本件の宿乃　白鴉
杖ふる　白鴉
ふる紀川辺　蓬洲
ふる秋　之房

霞

蒔絵やわらし吹の伊勢山　百萬
春郭晴て帆掛と拝く霞ふ　雅因
新宮やわらし浦こそ〳〵　嘯山
り生れ掛てやそうる霞る　孤桐
寺の鐘遠てうる霞う邦　可幸
さ[illegible]ふ霞ふ　之房

雪　雪吹　霙

雪の日や白い里ハ白紙清書　呉郷
大雪に鶴の翼ハ閉ぬ　蕪村
降雪を裾に折ふ柳かな　鶴
折れて[illegible]中ふ[illegible]の雪　貝錦
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]　百里
雪[illegible]ふ[illegible]　赤羽
京[illegible]少郎ハ雪[illegible]日うれ　反古
[illegible]ふ[illegible]雪[illegible]　凡阿

古人のなれもみまくや雪の鉢　大坂 方絮

一夜ゆく物かくしけり雪の面　孤桐

莪かうかくえ人を慶し雪みれハ
あるさなくとれハおもう女の童も
大雪や風もそれぞれつもりけり　嘯山

はや帰りきてあからさまに松の雪　烏暁

借ありく傘の餅やちる雪　可幸

一條二條さし傘乃雪　嵐山

袖のりは小坂をつれく雪くれ　アキ 風律

緒とかくハ鶴れし樹しの雪　巴東

ふらくす音なれおちや雪車　蓼太

大佛の膝に夜白雪や雪れ宮　百萬

雪ふりや家にはれ掛る雪汁　羽律

しるべに又えつきれ行の小路　孤沙

借てゆく我もとるや雪の中　土髪

水流の石踏ゆかれ由くへ　左釣

引ねまるく見えてし秋八雪　亀卜

白鶴の声もふしや雪の中　麻齋

乃ち弁小海老ちりや雪れ梅　蘭更
雪打ち傘の雪ふり　子一
鶴ゆや雪れ門の雪　呑獅
雪の日や雪角ふる松　諸九
雪ふる邪ゆて庶ふる柏　孤舟
捨ち出ゆ雪ふる雪　支麓
知ちて雪ふる雪　雅因
人ゆく八方雪ふる雪　羅菱

捨ちて酒屋ふる雪　二柳
雨引の雪ふる雪　吟阿
降ふる雪ふる雪　冬之
我郷ふる雪ふる雪　比松
雪ふる雪ふる雪　太祇
雪ふる雪ふる雪　社中
降ふる雪ふる雪　沙月
雪の雪ふる雪　武然

連ねる毎に千ゝ
雪とあて雪降る音や雪はし　エフボ　野冬
星くゝ雪のくゝ　召波
鶏ゝ雪と寝ける雪の竹　井台
雪の首こもりしやゝ　平戸　梧人
旅宿のもれの小雪しまの雪　イセ　八潮
雪ゝ雪に光る雪ふる　瓢二
白鳥や夜ゝ雪の音　文山

降くゝ菓子ふる雪や　坂　旧國

氷

花瓶の水ゝ凍ゆる　練石
今降ゝ雪ゝ水の上ゝ　大夢
寒夜
流ゝと流ゝ雪は　若山　霞洲
世ゝ雪の花ゝ烈る水ゝ　嘯山
ゝ雪ゝ滅ゝ雪ゝ水ゝ　蕪村
水ゝ雪や後ゝの粥ゝ　雁觜

春ゝ乃も月日の経るゝ沙月
ゝ刈て五曹入る水の郭　李流
入江ゝ為も月の紅水ゝの　龍眠
容して水ゝ乃ゝ為れ色　太祇
流れゝすれ風ゝく水の紅　二柳
水ゝ乃ゝ月の水ゝ変ゝ　古津
ゝ為ゝ水と刈ゝ踏ゝ紅　是計
吹ゝ乃ゝ風の郭ゝ水ゝ郭　沙龍

校川の水ゝ乃ゝ紅ゝ　赤羽
川ゝ水ゝ北川の色ゝ　血流
ゝ車水の打やゝ　千仮

鯨

ふく汐の入日ゝ風鯨ゝ　赤羽
潮ふゝ水ゝ鯨ゝ郭　周鮀
ゝ為ゝ大ゝゝゝ　篤羽
鯨ゝ紅ゝ為ゝ油ゝ　之房

[illegible] 支鳩

頭巾 足袋 綿帽子

[illegible] 瓢水

[illegible] 几董

夜の[illegible] 古津

[illegible] 富水

[illegible] 百萬

[illegible] 太祇

[illegible] 召波

冬至

川[illegible] 周禾

[illegible] 孤桐

寒梅 冬椿

[illegible] 嘯山

[illegible] 尺布

[illegible] 赤羽

[illegible]　玉指
早梅や[illegible]の[illegible]　嶺兎
[illegible]　五拇
[illegible]　太祇
[illegible]　赤羽

鉢扣

[illegible]　泰里
[illegible]　安里

[illegible]　仙鶴
[illegible]　嘯山
[illegible]　蓼太

寒念佛　寒垢離

[illegible]　蕪村
[illegible]　蝸丈
[illegible]　紫水
[illegible]　楮林

藥飡

藥食濃人〻家は尻の重り　尺布
車れまゝ牛と合しより　蘭丈
鍋けとそる牛蒡や茶飡　水翁
洗わ〻ぶを仕ゝの人ゝ冷　嘯山

煤掃

石山の石も庭すゝ掃　必化
煤と掃まゝ拭ふ上り　西宮　伊流

すゝ掃風のまゝ融る邨　移竹
すゝ掃や寺の時は節ぶし　嘯雨
門ぶつ廊まゝとなれば　百萬
梯子の戸に障りそ煤掃　太祇
なゝ人は世ゝきゝやすゝ拭　ちう
何人乃祇家吹やすゝ掃　子一

炭　炭竈

ふけるまゝ炭も酒の匂ひ　之孝

[illegible]　嘯山
炭ゝ[illegible]　凡流
[illegible]　水翁
[illegible]　桃葉（肥前）
[illegible]　玉里

餅搗

[illegible]　柳居
[illegible]　貝錦

[illegible]　杢
[illegible]　吾雪
[illegible]　赤羽
[illegible]　五銑

節分

[illegible]　宋屋
[illegible]　宗雨
[illegible]　珪琳

ふるもの[illegible]ハおう妹うト　太祇
角力の裸を笑ふ　孤桐
遠後乃山ハたゝ[illegible]ふ　羅人

佛名

仏名や色〻の紙衆ハ何　鷺喬
佛餐を稽首するおり　之房

雑冬

我を知る妙ふ[illegible]る納豆汁　雪峯

[illegible]　百萬
[illegible]　長禾
[illegible]　雲外
[illegible]　又江
[illegible]　夏友
[illegible]　巾系
[illegible]　文理
[illegible]　嘯山

立春ふれいろる春雨や神垣の　燕石
神垣の鶴よ雁なれかなしう　雁宕
侍のなかとしやとしや蛭子　流
ひるまはたとしや鶴の講　嘯山
一年の行末の所の鶴　英
屋敷けや二重家の門ふる　貞錦
人形の人今は湯屋や加減　狗中新　玄流
ふるの家の風　赤羽

師の庵よ葱ふる頃の　嘯山
ふるや指よ知るよ　人
知るの冬の冬の冬の　仝
物の冬の雲ふる冬の　吉蒲
物の冬の雲ふる冬の　其來
物の冬の雲ふる冬の　孤洲
物の冬の雲ふる冬の　太祇
上り星ふる冬の　左鈞
ふるの星ふる冬の　五鳳

[illegible] 嘯山
清夜樓や蓋合ふ行秋の月 龍眠
[illegible] 京兎原 嬉水
[illegible] 麥翅
[illegible] 不有
[illegible] 一扇
[illegible] 水翁
[illegible] 大村 千澄

行果ぬ[illegible]の繩 文水

歳暮

しら[illegible]や[illegible]田紙を[illegible]良
[illegible]
約束の[illegible]又出[illegible] 卯雲
[illegible]秋乃[illegible] 梅史
[illegible] 秋水
[illegible]百[illegible]や[illegible] 李流
[illegible]加面の[illegible] 巴二
[illegible] 大村 良能

[illegible] 大坂 法策
[illegible] 素園
[illegible] 郷今
[illegible] 枳義
[illegible] 太祇
[illegible] 富天
[illegible] 樓川
[illegible] 赤羽

[illegible] 大坂 秋水
自遣
年[illegible] 文貨
[illegible] 行雲
[illegible] 呑江
[illegible] 嘯山
[illegible] 凡流
[illegible] 大坂 李雨
[illegible] 土髪

米春の所之ゝ　玄　江戸　米仲
梅林餘香　存義
長ながるる毛れ古多ゝ　半魯
ちりとゝ之れ古　暦　五銃
合し長ハ古ゝ暦や　泰里
日れ之れ人れ之れ　鶴英
れ之れ之れ　風狀
梅毒ろ之れ　米屋

行ゝ之ハ之ゝ　武蔵野也　野有
ふけ行や燈ゝ　の柿れ葉　呑江
ゝ之ハの中ゝ　ゝ　丈石
家の小ゝ服ゝ　平戸　奥翁
業の水仙　大坂　田鶴樹
押ゝ寸力ゝ之ゝ　紀州　頤仙
前ゝ之ゝ切ゝ　移竹
遠ゝ之の梅ゝ　其流

[illegible]柚の白しやたゝ三十日　菜根
夕[illegible]と集めくるはしるれ蕾　珪琳
蕾の半ん日と[illegible]くらんとうのくれ　楚瀾
ふくゝて呉服[illegible]詩る[illegible]弐　羅人
[illegible]やいや[illegible]れ[illegible]の蕾　雅因
[illegible]内立春
[illegible]の水よ[illegible]日数[illegible]れ
[illegible]の[illegible]の[illegible]木[illegible]の[illegible]ら　嘯山

新選巻之四終

俳諧新選巻之五

雑部

古體

[illegible]　丈石
[illegible]　風狀
[illegible]　波光
[illegible]　太祇
[illegible]　薫村

未荷ふる雨に月ぬるゝ秋ぞ　龍眠
名月の雲もはれぬる夜ぶかし　才之
橋立ぬ鮮てしぶき飛ぶ　土髪
ぬれ川や白ふくの澄茶　雅因
独りと行ん今ぞ柿ぬる　嘯山
すまひ見ぬ宿の名ぬ宮柳ぶ　仝

檀林體

掛ぬ山や秋の雲ぬ乙　澄

雪原ぬ有る菜ぬ屋ぬ種蒔　存義

多病累年酒量比往日十僅二三

巳鱠市ぬ五夕の本ぬ　龍眠

吉野河豚鮟鱇のぬ人寺　蕪村

おちてちりぬ佐ぬ　仝

頃者或日ぬ出て袷ぶ　大夢

描の妻ぬ生ぬと取年　太祇

朱を冊や蓮華蒙精人間ぬ　仝

いんぶぬ雲ぬ蓮ぬ　赤羽

曉湖水と海くそらこらこて炊汁　嘯山

毬栗も笑ヲ日吾　老（イヌ）失　仝

歌真の狸ばらまくこれ歌て笑ふ　無名氏

曲水の五番下戸八つ[illegible]　雅因

圓晨江源の稲の実うう霰ゆ　蕪村

雪は其苟藜のうて書ゝれ　卯雲

三宅嘯山加賀くとうを送る

古国へもうれいきゆ　嘯山

歌論體

実ちうきの[illegible]の自ら[illegible]　仝

以下雜體

杏島

海風乃ことわるや麻の声　宋阿

雁宕亭ゝ

下野や奥ゝ石も如ゝ花の氣　仝

小梔ゝ

古家ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　宋屋

おまち

松風の新とゆもうる婦の考　仝

九亀笛別

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ立ゝ[illegible]　仝

佐柯氏の出帆を送る

麻の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　勝波（イ三勝本）

雪淀公を送るる

白ゝ[illegible]ゝ紙の[illegible]ゝ小[illegible]ゝ　百萬

千金裘非一狐腋

百萬

孫とうしうるくるる人へ　移竹

とうふ月花よ遊ひ民隅ゑ分結ゑてと名出　其來

長清拙全病中吟　三八　廬元坊

岡山駅

敢魚鮮る　仝

庚元り長清が論そ度人生長民夜話ホ無寸

長清の古屋や　童平

鉢子大黒角力の絵ゑ　野有

水仙ゑうとゑ　仝

布袋の肖とうく器

鉢の中や　春庭

脊中も　仝

汐夫

松陰やさくらホ　嘯山

麥清の踊とアるる

題目やうんよ落る　踊帛　仝

少婦　賛

搗ゑ　勝山民庭前の松の結うるホ句ゑ

ゑ　仝

大和めうロ時

木の下ホ古紙ゑ　八重ゑ　桑里

り絵孝女女ゑ

ホしの　ゑ　ゑ山女梅眠ゑ　女郎花　廬鳳

もちハ和のゑ　吉野山　茶雷

木履うる店に妻と坐して
下駄の歯よりの今やうるおふ　巳二

屠原賛
月光ひらひらうつる瓦の上　嘯月

大津より宿して
望き京櫂とたゝぼふ泊りの　卜友

片思
恋川を流るゝ舟の行朝　半魯

孤亭
秋うとけ〳〵ゝ砧の軸掛　仝

継子
寄の日や疳ものの鳥刀すもし　珍志

竹林涼く夏を小時
星のふる北の浦すま桜うれ　雁觜

真田侯野図
下ぶるよ紙うく蔵牛　喜圓

秋鹿
くるゝ鹿の赤の岡仏井と水流　若山　鯉洲

橋上月
橋の笛高瀬橋月見ぶし　呉郷

木芋の大弁コて扶の芋ふかしてこゝ小豆
萩ふけて木芋のかくれかな　大夢

寄蝶恋
蝶や花の小蝶の袖きゝ　二夕坊

栄居七十四
屋とゝすすゝ蔦れ落うれ　射道

一廉不住
冷ふるう屋落くゝ蔦ふる　玉壺

雀英妻をおくりし
机をを若よせめ息れ長ふ　雨谷

春怨
梨の実ぬるゝ笛の夕月　血流

寒閑怨

金屋あるく又ねぐらに二人寝し　嘯山

妙丗初月忌

雲やつしまるるはれしを　玉芝

侯居の父へ所帯をもらるる所に

うらもとすみ[illegible]　牛行

仙臺芳風菴開堂

泊まるまつよ連れる百人ひろの坂屋　雁宕

枫の下ふかみやつ雪る夜

不男の高ゆ代らく深森る　竿秋

椿林子席上雪ゆ芦鷺賛

ふ[illegible]ゆ暗もの[illegible]　仝

吉野

[illegible]　菜根

崔繪賛

[illegible]　淡々

吉野

[illegible]　仝

画賛

[illegible]酒[illegible]　嘯山

今此三界皆是我[illegible]衆生悉是吾子

世尊寺の[illegible]　仝

[illegible]　希因

[illegible]　仝

述懐

[illegible]　知二

奉納

神の[illegible]　且水

仙臺醉月[illegible]

[illegible]　烏暁

[illegible]　可幸
人侍帰京　卯雲
蕎の[illegible]花[illegible]ハ[illegible]
瓢子駒殺　仝
[illegible]
頭白宮人拂影坐　赤羽
古序所の[illegible]
仝
撥く[illegible]
憲塚　嘯山
[illegible]
[illegible]　吾友
胡[illegible]
後朝　富天
蕎の[illegible]
キ若出婦　春梶

義家察伏兵　李遊
[illegible]
角田川　樓川
曲水や[illegible]
上巳の[illegible]
[illegible]門田[illegible]
金渕懐古　百萬
[illegible]根性貴[illegible]
吉野　嘯山
[illegible]
江上雑　萬翁
[illegible]
無心無仏　梨冠
[illegible]
九月十三日[illegible]　儿圭
[illegible]
[illegible]　麥越

師走中の十日頃をいとこと
月ちる日の涙うれ　孤桐

中秋清光
あるかなきの月をしんうれ　羅人

賞賛
雪ちる八月ふかるや梅の香　淡々

七十ヶ月ある夏
いけをちるこてはつけ去　盛住

慈母喪中
ふるくなしたる秋乃雲　魚日雲

頼光山入圖

安倍晴明の加治せしに神変鬼毒酒と
ふるとき書しるす
峯入や笈より出る鬼殺し　嘯山

首途や花はさてさて蕭然　雅因

[illegible]国聖母山神皇寺小詣で神后の
[illegible]を祈り[illegible]青三百[illegible]

義しく月のそや吳國まて　芋秀

土肥氏の紋ふしぎ面別
苔のよれ塔よかくふれる　仝

平戸ふしぎ藤原しの面の美[illegible]と
[illegible]笈の流れもうやれ上　仝

伝承
木の花咲ちる原れ山おろし　羅嵐

風雅先生とおもふ
先くおくまり秋やとも弁　正以

仏意
ふるかやくまり秋れ休り　舎来

同

同

行脚　宜中

晴山老母を喪ひ
ゆし嶋くさ山橋　二神

而るに口号
草枕や傘色変る　可幸

後句
蓬とたたかふ　花雪

旅中送人
行方や浮世ばなれ　千梅

文芋とおもふ
むしり捨てる別れ　仝

粒々皆辛苦
ちりぢりに植ゑ　青臭

刈舟小祥忌
ちるもかふ一人ぬ踊　仝

十二曾路
炎こゝに小祖父ある菊の山路ぞ　蓼太

快気
涼しけく回れ八ちの車哉　瓢水

石宝殿
神力のまたぎ角力哉　仝

月輪奉納
行基云ふ仏ぬ山のたらちね　名河原瓢扇

洛北浅野稲荷に義士の塚あり
捨てんと思ひ国れ　雁宕

流落遊竜安寺
捨川の方ぬ　仝

吟ぬ浜史八翁の
蓮門ぬ入て素坐其角とも
何しぬ行く色　射特　仝

かゞ白川の辺を逍遥して肩の上　雁宕

白梅子賛

水すまして兼て小てようる　仝

胡笳　塞上曲

李爲より政事を友とする白い袖の月　黒露

桂爲のをとゝ出しくらべ　嘯山

細川公に従ひ途とえらべ

とりこゝろ今や枳穀の花乃は　春來

長泉寺本堂

ゐるまゝにてはなくて蠅うるさし　仝

先師青蛾居士七悼

あるじの目口へくしるる子をうる　仝

医師　文美亭にて

青すゝをうるて西瓜ばかれ其の夢　存義

秋園ゆりよ寄す

ゆくゝ百合なるるしハゝ葉一瓣　仝

少年行

豪士小妾暫りんゝ　百萬

花蔭七十三枝の鞭や廓を　孤桐

鞭捉て売追ぬさゝ張　智先

虚言偽よ思ひ仕の業し　赤羽

浩神

宝引やとしら結んゝ中ゝ　李流

猿

ゆゝ素ハそらそゝ穿れる　習元

猿

うき屋よ屋根ふく音や拾ふらん　之房

去此不遠

沖とある月うつる芦の下　無名氏

上巳

雛盃捨しハ魚となりぬらん　嘯山

仔生三十日のうぶ声に一声なきて

惜哉しまと鳥やなくあす　龍眠

蓬亭主人と対月小酌の抽五句ともに入れ

落涙をうち拭ひの月　萬古

丹波掛尾峠

すしうや掛尾れ峠の風　井月

菜花へ橋ふみ行くと

又月ぬやうなる　江戸　貝明

春来七周

春来て七光りを　龍眠

公ナ行

川指のうまう岸よりなるあらう　仝

十三夜雨

大輪の白菊生ん月うつる　仝

美濃の人百菊賀

菊ふもし菊花の酒　嘯山

芝舟宿の図

舟宿の舟に菊小酒ん　之房

琵琶湖

鳴の巣の数定めりや八百八嶋　江戸　烏酔

武蔵野

りハ又ふるふ山ありうこ雲の峯　麻兄

富山眺望

雲為や仏変の山色矣一つも　泉明

芳野にて以前と比べうく河津ける　湖柳

秋野

蕎麦しらるれいつ〻蔵の雪　土髪

落葉ふる古寺

袖垣の雪れ住寺や別座敷　太祇

太祇ようこそ

ゆるんせるよ〻と〻ゆ〻人〻独白か　嘯山

袖〻禁庭と毎〻仲門とおもふ

ちるとなく中立蕎麦やほ〻ゆ〻ゆ　嵐山

北村幸順叟追悼

捨られて〻蕎麦ひ出す蔵〻れ　尺布

高太公留別

巨燈出て〻ゆ〻ゆ〻の聖川か　蕪村

悼亡

ゆ〻ちるもひねるうしろ秋の色　金龍

太祇叟窪英子徐ひ〻ゆ〻又君俊子の不幸を悼

ゆ〻ゆ〻ゆ〻の寄やゆ〻ゆ〻ゆ　赤羽

仝竜道人より得し〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻おす　五筑

病中小神明の西迁宴とおもふまゝ　加本田

ゆ〻の日やゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ　守紀

かれ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ　山吉奉島僧

いつしかゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ　九可

春奥

出ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ　呑獅

醜女賛

ゆ〻ゆ人のゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ　習先

旧君門老樹の梅枝咲ゆ

ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ　仝

詠史

阿新丸

竹ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ〻ゆ　瓜流

琴碁書画琴今のけふ　嘯山　（千午前）
折る岩わかつ新たこと　仝　（斤桐且元）
柳絮飛　趙飛燕
柳絮ちるあくうの柳や風の蝶　習先
王昭君
ちる岩の今文物し園の花　仝
同
おしやれそこれたへ裁う人形　孤桐
同
ひ鶏と麻ひく業る食ひ　赤羽
同
海棠の移色遠ちこさ女ひ　楮林
文雅の附ふわよ
韓王者日本拘也とし霞山代の春　嘯山

春怨
蓬髪掃寸柳の面や枝まて　欠作者
同
二月の緑を掃ひ奉の爪　習先
閨怨
物のなかよ神をハつ〻茄子ひ　芳室
大坂
楚宮詞
餓〻小腰ん〻ん如柳花　太祇
江干行
妾ん気ハ江の面ひ〻ん茲粽　仝
行京
俺て色橋をなつめ蔵多ひ　瓜流
春怨
雨の竹や咽んて幾夜花の枕　竿秋
寄京
乃〻ん〻ん〻ん〻ん〻ん〻ん〻ん　呉郷

成在色

[illegible]の[illegible]を出し[illegible]　嘯山

美人色表

[illegible]の日数[illegible]　麥翁

同

[illegible]き芙蓉[illegible]　孤桐

遊女賛

[illegible]　二柳

宮詞

[illegible]わるる女[illegible]　百萬

鶴

[illegible]　嘯山

賛

[illegible]　卯雲

友川より注文賛

[illegible]の日の[illegible]　楮林

大黒天賛

[illegible]　雅因

同

[illegible]る砧[illegible]　嘯山

孟母三遷圖

[illegible]　吐月

琴に蘭[illegible]賛

[illegible]の[illegible]小橋[illegible]　野有

福禄壽賛

[illegible]三の[illegible]　仝

[illegible]賛　宋屋

西行賛

[illegible]　京馬

東氏夢画賛
如我昔所願今者已満足
居士流

全

西湖白龜瓢讃

琵琶湖
本来無東西

全

雅因

画賛

大夢

三界無安猶如火宅

麥翅

蜩牛嘲麒麟曰
我小牛角々ナシ

嘯山

訪隠者不遇

二柳

自歎

雁宕

書窗嬾眠

燕村

有感

可幸

身如浮雲

亦羽

同

同　孤洲
ゆとんや市小酒しく門龍

三番叟　赤羽
ちりとり山ヤウオンそれ法師

賀　裝御前

李流
接ぎ木の松ヲ如樹と仰ぎ

子一
賜盃累ちやそ二所の榊の赤小

習先
海棠や青ちるまつ花

赤羽
炭ちりやふんそく伏るる女房花

煩悩即菩提

李流
温石やとろみやとろとて苔ふる

孤洲
ちる果や味噌搗坊入　瘧

布袋川渡圖

文誰
果ちさ見袋ゆとの小ちり

子一
海ふ川鍋ず新の出ちあと

之房
畜ち法を納る養れる歩ふり

一日千・発句の中
文誰
横抱ちく吟しく仕ちん納豆汁

麻きんとある山ちる上ちを行もく
蘆洲
ちちきけ山ちる住宅ん蒸の声

嘯山と大系寂光院より遊ぶ　梅史

[illegible]の[illegible]や美人草　嘯山

嘯山武然文臺開の日

[illegible]の[illegible]二十[illegible]　丈石

[illegible]　嘯山

[illegible]の[illegible]　龍眠

[illegible]の蛍の句より拙手　麥翅

[illegible]の葉より拙手　嘯山

[illegible]　太祇

風林纖月落　全

あやまつて[illegible]の[illegible]月や初嵐

春城無處不飛花　嘯山

[illegible]やこうこう潤の流るめり

賦番太郎　青蒲

おのれしら[illegible]

幽居　雅因

大三十日書と立[illegible]

稲山　陶花

菌の[illegible]や[illegible]

西邸夜遊　尺布

[illegible]

納涼　麥翅

[illegible]

[illegible]　龍眠

[illegible]

[illegible]

[illegible]の袖[illegible]　百萬

双知が月像のうつ
[illegible]の[illegible]と[illegible]　劍山

辛川の京月旦君と惜まりし時
月[illegible]　鼓合

布門と[illegible]
[illegible]　水翁

[illegible]と[illegible]
[illegible]　子一

[illegible]
[illegible]　瓜流

[illegible]父の別
[illegible]　京馬

人の喪中と聞ハ
[illegible]　太祇

中風[illegible]
[illegible]　仝

老母喪中感遇
香の[illegible]　大夢

見錦小[illegible]
[illegible]　篤羽

情[illegible]
[illegible]　宋屋

[illegible]
[illegible]　二柳

[illegible]
[illegible]　盧元坊

小男鹿の角ぬけかはるよ　全

筑前太宰府と云る所へ全くしばらくすまれしとき

ちらぬ花も有てさくら哉　全

唐人坊と云る所にて

ちるまでは見ぬ人ぞ多し　宇庵（長井氏）

左嶽亭

先年吉野の舎りんふやうの義り　以哉坊（ミノ）

諏訪湖小江文亭にて

すゝ風や構ふ蚊を物けうを　全

以哉坊と云る

湖さゝ波ハわれかんこゝる　百疑（ミノ神）

唐人坊と惜

故郷ハ遠く昔の塚の上　佳由（薩石動）

亡父三十三回忌

義虫の身はよろけく鳴る事ぞ　春來

儿隙と悔む老父有り　又性よりあり

垂る事や枝つゞ菓も小菊もゝ　嘯山

隙勢委敵ハ名為を詩で門前の蕉葉に對す

冥々と日は接実ゝ有る芭蕉哉　全

伊室と遊ぶ

枝踏かゝゝ花の雪の上　竿秋

第心ゝ

和ゝ知実と紙る時面うれ　樓川

芳我反田植

神ゝ面と寄て植ゝや苗代貴　百萬

仙ゝ来しのゝゝ

のゝ白の元と新蓮の宮　全

中納田安別

度すゝゝとゝ小祠や苗代荒　雅宕

送庾臺　存義

[illegible]　野有

[illegible]　它谷

紀伊歌の御[illegible]の月や松の[illegible]　苔荷

[illegible]　越前　利木一

[illegible]　闌更

[illegible]　百萬

[illegible]　仝

[illegible]　左鈞

同

[illegible]　赤羽

博奕打　習先

[illegible]　太祇

田家

[illegible]　嘯山

[illegible]　萬翁

[illegible]　行雲

[illegible]　嘯山

侍女

身とおもふ燕の声にわすられ　交翅

旅人に謁して

山鳥は白和もしてゐる　大坂 春樓

雪の山家に類して名月の夜旅辞して

辺つけていや帆んのしのゆく　野有

新出三宅氏八令しく俳諧と修練せる
の紀詩道にも名高し住年古名家の
秀逸を選して一集と味ひと其名の名字
を録し挿て護く知らるる世人紙の
洩らく未絶の精しきまふめてまとめて
事業し今文古の書を編選せるとて
今附の句と蒐んの挙わり僕も手未乃
因三厚く上おきの甲せ[illegible]くあひこの
選に加りその識て老後の表せて眉
のするころすを述八一句を綴しそうつ八祝し

よい志とのふ

危かれの捨られもせて花見かな　沙月

感秋

戸をたてし白のちるや初嵐　嘯山

明和庚寅年夏より旱して川々と井の
水も[illegible]く涸果し只世上の路太方ならず流水
文月末の八日の秋少方に影を[illegible]赤気立て
人親さう[illegible]計甚しく[illegible]諸も未曾有の
事とて驚き[illegible]て人日[illegible]雨[illegible]と[illegible]
[illegible]文[illegible]し[illegible]の[illegible]
像に涼しき[illegible]されは井も川もなけれ
こりてもろく怪化説の巷に満ぬるを

自ら出ぬ

鑓なる[illegible]や[illegible]山を[illegible]ん　仝

如月の比雅因さうへ家へ[illegible]と謁く

大工先遊んで[illegible]日和　太祇

[illegible]

[illegible]　全

[illegible]　嘯山

門松の梢めでたし　三吉の月　龍眠

[illegible]　雅因

[illegible]

古人又斗米を[illegible]と嘆ぜれ
[illegible]農工又生涯[illegible]
[illegible]

しらうや花の上ふる小雨　嘯山

平安山川之佳麗無如嵐山花開時所謂妙于小景者也

土龍のむし川多るやひとりぬる　全

俳諧新選巻之五終

新選追加

[illegible] 超波

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我れこそなるとく[illegible]のうすゝ手　江戸 心流

いけんくとをのゝる[illegible]のはなさけ

乃り谷の力で雪とる[illegible]ん

打取米の下卑ぬ二千日や桜川

鶏卵て鶏鳴でる命こう郡

俳諧の婆ハ八人此山のとくとく小袖之
家鳥を凝とくくを諸方に於九郎魚

四角の相に手もあれハ実なく
青柳の鶏なるとなし

串柿の甘味ハ昔ハ野もちれ　珪琳

柿の香や諦ろ花生魚売

狭き家よ孔文の前をん、砂盤

附る物をきき無れ為にらう

山家集読む面白秋乃雨

砧こけハ秋向なとう梧森哉

声も菜をこ肩そ香[illegible]郡

走とい女小[illegible]ハ松[illegible]

蘇よ妹の糸取[illegible]中をとり　柳居

つれなくなくなく出る秋　江戸　延尺

やふ入の二枝秋さい　同　素丸

大幅はいくつ　同　宗瑞

袴ぬぎてうのぬや初蝶　同　東季

玄関よりぬ牡丹ぬる　名岩

西貴や今一指ハ乃中　同　遷十

秋ぬの内庭ぬ雲さうる　僧　大涌

小國時りとおもひ
もきやもそしハ友人歌も
ぬ寸

生ぬ師の沼ぬらまんぬ苔の穂　仝

良ぬ吉の人ぬ音妻人　士蝶

京ぬ嶋ぬ苔ぬ花ぬ　楚古

花ぬ八ぬ多ぬ八ぬ　三夕賛

宮家ぬ別れ　古道

梅ぬ花ぬ海ぬ　仝

日ぬ和ぬ　上　同　古行

紙ぬ風ぬ

春をの塩竈人里　[illegible]

元日や赤ゝ[illegible]　大施和尚

ほとゝぎすや松ふるく梅の紅

[illegible]のかゝりやたゞの雲

炭の名ハ[illegible]

玉里

人とおく人と酒やをゝとも

[illegible]

梅風

[illegible]

行列のすゝき振ふく振ふ　大坂　雄山

石川や能くとゞまるとゞまる　仝

[illegible]　乙上

[illegible]　五雲

[illegible]　四玉

[illegible]　鶯風

[illegible]　水

[illegible]　簀出

筍や　秋の餞　ちりうん　香杏
梅雨や　陰の　必ふるあり　蘆舟
炊ぐの　流れ　ゆりわ　梅花（大坂）　枝栖
時ふる　小山　流れけれ　仝
ふるさと　来て　酒とまひる（高久巣）　鈍鳥
我畑　堅の　河ての　苔ふ　五鳳
雲を　結ぶ　風をし　底抜の上　仝
上ぐ　ぐ　つ　ぐ　乃　星ぐ　懐居

柿の葉や　焼ぐ　れる　ぐ　ぐ　不染（アラミセ）
ぐ　ぐ　や　柿　天の　伊乃　沓の音（京）　如松
ぐ　ぐ　ハ　又　流れ　の　田隈　ぐ（同）　哥卜
行　枝の　塩　く　ぐ　る　葉　の　ぐ（同）　竹宇
り　秋や　ぐ　み　深　つ　く　紫（同）　婦風
萩（言三蓋古）　咲　く　う　わ　る　雪　せ　と　ぐ　ぐ（同）　山竺
誕生　と　や　ぐ　ぐ　ぐ　う　邦（同）　山水
斗　ぐ　ぐ　吸　ぐ　て　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ（同）　百丸

抱籠や蓋と呼るる 仮まくら 同 貪秀
涼も絶無と絶る田植うる 同 都友
されいうて異さと涼の蓋 同 黒人
苔の紅かぶ小おくら 小光 山詩 山口流 山肆
涼うて夜涼うて 東武へ下る人と差る 同 御牧 聽雨
日のたつ合るたくうる 同 平尾 古鳳
明るみて涼の慶 同 善福寺 亀石
苔鍋や鮒よ紙の問答 同 古舟

七夕や紙燭の けつ一れ 同 南桜 卷中
沈小つる物ふくいふ 同 簾風
涼さ今後へ月は回ぶまて 同 榮五
うむ日を方もち見のき蓮 同 イロハ
老乃秋ちこ乳ってしる 同 柳糸
こ物を生く初潮る蓮ぶ 同 河求
蓮面や郭小蓮る蓮の声 同 三好
お代や蓮れ花の蓮れ涼 同 梅松

谷川よ吉野の桜や花木槿 同 蘭風
走る程風乃退散する 同 退笑
咲とも花と笑ふる梅の邦 冬 竹友
岩ぬの立てく咲ひ立ふり 七月 圭山
藁葺の御家人所や菊の花 同 魯貢
時鳥ひとふ家をあふ邦 同 之園
通ふや父の好をはもふ 同 里由
ほ紙のの睡さうれつ廉の声 内フクロウ 沙山

ふ水深笠くこ高り山路ふ 同 一敬
ふひ来くふ来ゆるさうる 同 湖流
及指の省ふ海ーる美葉ふ 同 三甫
蛸壺よつ〜へ〜ふ水の岩 内脇濱 桃葉
高くたの小ふある国環る 内大石 士川
父来ふ海ふ来ふる火雄ふ 同 家足
湖やふ〜の来ふ なを 雄 同 士巧
夏ふ今く切ぬ牡丹ふ 同 士喬

[illegible]子の流し素麺　同　亀文
[illegible]の秋と[illegible]小さを　タヘ西条　社中
[illegible]　サヽ郡山　魯玉
小道へ梅[illegible]も[illegible]つゝ[illegible]　同僧　雲岫
[illegible]の色や月乃[illegible]　同　梅宇
白[illegible]や傘[illegible]日傘の川[illegible]　同　其峯
[illegible]入や道の[illegible]　同　休影
泥棚や[illegible]　同　季人

おだ鍋と[illegible]　同　故角
弓張の月と[illegible]　同　蘭交
[illegible]家相[illegible]小[illegible]　同　珪山
[illegible]　淄別　タヽ[illegible]原　和旦
[illegible]　帰国吟　[illegible]　奥アヒカ　其白
苗代や[illegible]　月會津　驢井
[illegible]　大坂　木帛
[illegible]　越中戸出　康工

此河の年まで太祇詠草く当時せし巻
二河五吉の子より都りぬれ二ツを出て
の集は我よ我をかゝる梦の不審
なしかうしてやゝ不是しぬ以ておもく
しるむと目をそと情ある歳ふ
記り行く見

涼句さん仔夜硯れ水ゆかまく　太祇
灯あ色朝白短檠乃月　嘯山
きゝしる氏吹きを鋼しゝ多　全
二河よ鍛し今も太國　祇
汝の寺細江の芝へ蘇生森下　全

紫二河立して鶴のぬれ緒　山
ウ 山庵夜不部しさひそりとも　全
年へ庭れ硯日傭三人　祇
西風それ大木切小切迄多　山
押合ふくり開枕の秋　祇
あれ家ありあ六やれ三か　山
膳よ三付置よ煙を計まさ　祇
沐棚の三寸余もせく移つん　山

蚤ハ世ニ[illegible]ら聊かやりそ　祇

[illegible]都の郡内の山法ハ　山

[illegible]と十はを[illegible]の　祇

悔ける数一因人かつぐく　山

風のあ[illegible]れ中為乃転　祇

生飯前八鳥水訓ら新の瑞　仝

法華の註ぐと五年市なる　山

[illegible]の言すぐく折ぐ行ぐ涼し　祇

玄孫市[illegible]ゆ稚古ゑ来　山

按摘帰ゆ[illegible]ぐ出て　祇

[illegible]とつむ若ーさ　山

[illegible]ハ情に山命　祇

[illegible]ぐこ[illegible]り　山

鰻冷ぐ[illegible]ぐ[illegible]　祇

[illegible]ぐ[illegible]融性急　山

[illegible]温気の病　祇

業乃藝とは清く結ぶ　山

竹生紙業ハ名高き紙　紙

長吏の義助大事為人　山

物よのいうきうを夢とも　紙

合奏すうしゅ練塀の角　山

ふ書うふとやいふ花墨　紙

柳乃葉は　蓮　山